

唐話辭書類集別卷（普及版）



[唐話辭書類集別卷（普及版） 下载链接1](#)

著者:長澤規矩也

出版者:

出版时间:2010-7-30

装帧:

isbn:9784762929403

（諺解校注古本）西廂記 五卷五折〔元王實甫撰 關漢卿續〕〔遠山圓陀〕（荷塘）傳鈔本 半五冊

一噓道人諺解と稱する譯解笑林廣記二卷（文政十二年刊）の、和泉屋金右衛門等の奥附に、

諺解校注古本北西廂記 元王實甫填詞／荷塘先生注釋 近刻

覺世名言一名十二樓 ?李笠翁述／荷塘先生譯解 同

諺解注釋琵琶記 元高則誠填詞／荷塘先生注釋 同

の三行があり、その首行に當る書が本書である。この廣告については、?木博士が夙に「遠山荷塘が傳の箋」中に言及され、一喙道人とは、その書の刊年と荷塘の歿年（天保二年）とは三年の差なるによって、年代は符号するが、彼と親交があった朝川善庵の碑文に、北西廂記注釋・月琴考・胡言漢語考の數部脱稿と言って、譯解笑林廣記をその著として挙げないので、東條耕（琴臺）の「近代名家著述目錄續編」に荷塘の一號として、その書を挙げたのを、誤聞であろうと言われた。それはともかく、私も、學生時代から本書の傳本を搜していたが、古城坦堂の生存中、その關口臺町の邸を訪れて、坦堂が得意顔に本書を示されたことがあった。今、坦堂の蔵書が細川家に入り、斯道文庫に永青文庫本として寄託されているので、之を底本にして影印した。底本は自筆稿本ではない。従って、坦堂の言う如く、天壤の孤本であるかどうかは判らぬが、現在のところでは、他の傳本は知られていない。西廂の注釋は、明治中期に、岡島獻太郎（明治二七）・田中參訓（從吾軒）（明治三一）・坂本信次郎（晃峯）（明治三三）・鹿島修正（明治三六）によって企てられが、幕末に、已に之を成し、而も、漢文を以て著したということは、特筆せざるを得ない。而も、この四書は、この本を参考にはしていないようである。荷塘の傳は、?木博士が已に引用せられた如く、朝川善庵の「荷塘道人圭公傳碑」に詳述されている。初名は松陀、一圭・荷塘道人と號し、陸奥の人。夙慧非凡の稱があり、一度佛門に入り、信州から畿内を行脚、日田の淡窗塾に學び、間もなく長崎の崇福寺に逗留して、唐話を譯司周某に就いて學び、明?の樂を?人に習い、月琴を學び、何れも堂に入り、室に入った。在留五年餘、日田に戻り、信濃に歸る途上龜井昭陽

を訪れて歓待され、留ること數月に及んで、辭して、京攝尾信を経て、年三十一、江戸本所に寓して、善庵・天民・雲山（宮澤雉）等に西廂・琵琶を講じ、後淺草に移り、明樂劇曲を教え、自ら樂器を作るに至ったというが、生來瘦軀病身、天保二年七月、僅に三十七歳で病歿した。碑には、著書が多かったが、脱稿したのは北西廂記註釋・月琴考・胡言漢語考の數部のみとある。上掲の琵琶記の注も未完成か。胡言漢語考は、或は、唐話辭書類集第一集に影印した胡言漢語であるかも知れず、月琴考は所在未詳。拙架蔵する所の嫦娥?韻は、自筆稿本であろうと思われる。

〔譯〕琵琶記 寫本 大一冊

琵琶記の第五齣までの原文附和譯。未完成の稿本らしく、江戸末期の作と考えられる。勿論、荷塘の作とは別本であるが、附刊とする。別に、六十種曲本の水滸伝の全部に旁譯を加えたものを蔵し、之をも合刊しようとしたが、頁數の都合で、之を別の機會に譲る。

作者介绍:

目录:

[唐話辭書類集別卷（普及版） 下载链接1](#)

标签

音韵学

语言学

工具书

东國英華

评论

[唐話辭書類集別卷（普及版）_下载链接1](#)

书评

[唐話辭書類集別卷（普及版）_下载链接1](#)